

上海附近支那軍の内情に就て

三月一日 陸軍当局談

上海附近の支那軍は某方面を通して停戦を提議し撤退の意志あるを表示し来れる趣であるが、吾人は支那軍の誠意を確實に認め得ぬ限り援き放ったる破邪降魔の寶劍を鞘に納むることは断じて出来ぬ、此の際輕々に停戦を約し却つて時局の解決を遷延することとは平和人道の爲にも考物下ある。

彼等は我が軍の外部的壓力に加ふるに最近に於ては内部的紛争をも生じ自滅の外なき實情立到った。

今次事件に關聯して支那軍閥政治家の醜惡なる鬭争があつたことは周知の事實下ある、即ち蒋介石汪精衛の一派と陳友仁孫

料の廣東派の反目がそれ以下、廣東派は
茅十九路軍を使喉して事態を紛糾せしめ
蔣介石派を退退兩難に陥らしめんとした。

一部輿論に引づられて警衛軍が上海戦線に
加入するや總指揮蔡廷楷は外様なる該軍を
第一線に立たしめ自らの茅十九路軍はこれを安全
なる後方に控置し極力軍閥の資本たる兵力
の保存を策する一方督戦てい名目の下に警
衛軍の敗退を扼して是に猛射を浴せ多大の損
害を与へてゐる。かくては保身利己のみ専念
する支那軍閥向に内訌の生ずるのみを志すを
行まい。

従来支那軍は有ゆる虚偽の宣傳を行つて我か
半の威武に対し疑惑を抱かしめ軍民の抗戦
意議を醗醸しつゝあつたが事實は何よりの

証據であつて地形特に陣地の堅固を恃み
優勢なる兵力を擁しなからも日本軍の攻撃
を受く心は毎戦莫大の損害を受け敗退に
次々に敗退をしてゐる。

我が飛行機の爆撃、砲兵の猛射、歩兵の強
襲は彼等の愕然として驚き慄然として
怖れを爲した所であつて最近の情報に依れば

士氣頓に阻喪し將卒の逃亡相次ぎ租界に
入り武装を解除せらるゝもの續出し負傷を偽
つて入院するもの多^{も亦}く敗退後の身の振方々を
つけんか為不純なる金策に没頭す^すもの等
は大半と稱するも敢て過言^{なく本日は大場鎮道如方面で大掠奪を開始した}下^{この情報がある}

る。この向にあつて共産分子の策動も積極的と
なり全軍赤化の徴一歴然とし兵卒の勃発さ
へ免れぬ状態にある。

軍情既に斯くの如きに加へて戦場たる上海附

近の民衆は慘憺たる塗炭の苦惱より脱却
せんことを懇願し中部支那地方は経済状態
刻々逼迫するに會し速かなる常態復帰
を切望しこれが為村日抗戦の中止を絶対必要
とするの所見に一致し支那軍の敗戦漸く明瞭と
なるに及び其潜行運動は俄然表面に具体化せ
んとしてゐる。

支那側は事件を拡大紛糾せしめて國際聯盟及
列強を其渦中に誘惑し村日圧迫を待望せし
も日本は正義に立ちて何者をも恐へらざるの覚悟
を示してゐる為に結局支那自身支那自力に依る
解決を圖らねばならぬので各々其責任を回避
せんとして或は國民竟の打倒を策し又は廣東政府
の独立を準備する等政情漸く混沌たらんとし
てゐる。

巷間傳ふる支那軍の軟化には以上の如き情實
纏綿たるものがあるのである。

彼の軍情如何に變化するも彼の政情如何に
混沌たるも我が軍の行動は終始一貫一律不
変である。即ち過般政府の声明せよ如く武力
を背景とする権益の拡張や領土的侵畧の野
心等は固より毛頭なく神聖なる國家自衛権
の行使以外に^{は決して}超越して居らぬのである。
上海附近に平和の曙光を認めたるは吾人の衷心
より欣快とする所であつて我が為列國の協力
を多としてゐる次第である。

上海方面増兵ニ関スル件

三月一日 陸軍省發表

晨ニ警衛軍ノ増援ニ依リ上海附近第九師團當面ノ支那軍兵力頓ニ増加シタルニ鑑ミ新ニ同方面ニ所要ノ兵力ヲ増遣シ第

21 九師團ト共ニ上海派遣軍トシ陸軍大將白

川義則ヲシテ其指揮ヲ執ラシメラル

右増遣部隊ノ一部ハ二月二十九日軍司令部

ハ三月一日何レモ上海附近ニ上陸セリ

又第十一師團ノ主力ハ三月一日上海附近揚子

敵ノ機関銃射撃ヲ制壓シツツ

江本流沿岸ニ勇敢ナル敵前上陸ヲ敢行

シ揚陸成功セリ